□3月31日礼拝説教(短縮版)「人の罪によって十字架につけられ復活された方」ルカ24:1～12　隅野徹牧師

私は今回の箇所を改めて読んで、特に迫ってきたことがあります。それは、イエス・キリストから直々に教えられた復活の約束を、悲しみと絶望の中で婦人たちが思い出すことができたのは、自分を含むすべての人間の罪の身代わりとなって死なれたということが、心で理解できたからではないかということです。処刑にかかわった世の悪者たちによってイエスが無残にも処刑されてしまったと、婦人たちがただ被害者的に悲しみ嘆くのではなく、自分にも罪があること。そんな自分をも罪から救い出すために、イエスは十字架にかかって死なれ、死の力に勝利されて復活されたのだということが分かったのです。その時初めて、「復活が何のためなのか」「自分にとってどんな意味を持つのか」が自分自身で受け止められたのではないか…と迫ってきたのです。

イエス・キリストの復活を、本当のこととして信じることができない。また、イエス・キリストが奇跡的に生き返ったことは信じるが、それが自分に関わりあることだとは思えない、という意見を聞きます。やはりイエス・キリストの復活を心で信じ受け入れるためには、まず「十字架がこの私の罪のためだったのだ」と素直に受け止めることが原点なのだと私は考えます。

もしイエスの復活が喜べないならば…そのときは自分の心を見つめ、自分がどんなに罪深いか、しかしそんな自分をも救うために神の御子が命をささげて下さった。それほどまでに自分が愛されていることを、思い出す必要があります。今朝の礼拝の中で行われる洗礼式を通して、見守られるお一人お一人が、目で見て、このことを思い返していただける機会になることを切に望みます。私たちも、イエス・キリストの復活が何のためであったか、私とどうつながるのかを深く考え、そしてじっくりと噛みしめるように、主の復活の喜びを感じましょう。

「イエス・キリストは神の御子だ。人の姿をとって私たちと共に歩んでくださる愛のお方であるが、しかし、死の力さえ打ち破る生ける神なのだ！」そう信じられるところに生きた希望があります。今日洗礼を受けられる姉妹にとっても、他の教会の兄弟姉妹にとっても主イエス・キリストの復活の希望が皆様の支えであるようにお祈りいたします。(終)